

展示の趣旨

中国南西部の雲南省はヒマラヤ山脈の東に位置し、東アジアでは生物が最も多様な場所。しかも房総半島にも見られる照葉樹林が広がったり日本との共通性もうかがわれることから、日本

の生物相を考える上ではとても重要な場所です。当館では、そんな雲南で、地衣類の学術調査を行いました。この展示では、そのとき撮った写真を中心に雲南の地衣類と自然を紹介します。

雲南ってどんなところ？

知れば知るほど面白い。春城、大理、三江併流、照葉樹林、プーアル茶、梯田（棚田）、少数民族などのキーワードから雲南を手短かに紹介します。

地衣類って何？

学校でも学ぶ機会はないですが、じつは身近な存在です。ウメノキゴケ、ハナゴケ、サルオガセ、アイスランドモス、リトマスゴケ・・・いろんな地衣類をご覧ください。

関連行事

●ミュージアムトーク（展示解説、11:00 と 14:30 から、各 30 分）。3 月 13 日（土）、3 月 21 日（日）、5 月 5 日（こどもの日）、5 月 9 日（日）

●シンポジウム「雲南の自然」（講堂）3 月 22 日（月、振替休日）。13:00～16:00。当日先着 200 名、入場無料。雲南の森と植物について雲南大学の唐勤教授が、雲南の茶の生態環境史について立教大学上田信教授が語ります。

●講演会（講堂、当日先着 200 名、参加無料）

①「雲南の植生、地衣類」4 月 29 日（昭和の日）

13:00～15:00

②「雲南の地衣類」5 月 5 日（こどもの日）

13:00～14:00

雲南の地衣類、自然、人々

日本で、いや世界で初めての企画です。決して他では見ることはできません。

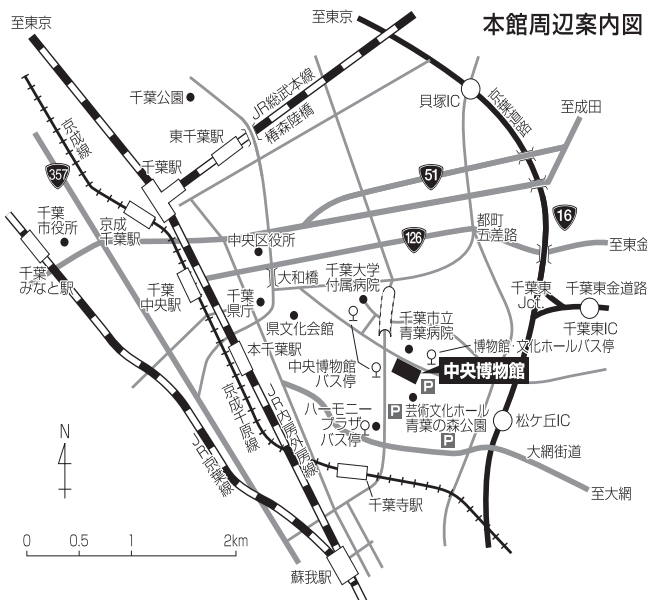
◆地衣類の楽園 ナガサルオガセに覆われた森林、巨大なカブトゴケ。雲南はまさに地衣類の楽園と言って良いでしょう。

◆雲南の地衣類いろいろ 実体顕微鏡で拡大した写真には、意外な世界が広がります。標本もご覧ください。

◆金絲猴（きんしこう）－地衣類を食べる猿 孫悟空のモデルとされる金絲猴。その 3 種類のうち、雲南北西部にすむ 1 種は絶滅寸前。雲南の動物学者が撮影した彼らの貴重な写真をご覧ください。

◆地衣類の茶、地衣食文化 様々な地衣類を茶とし、また食べる雲南は世界でもまれな地域。実物と写真にエピソードを交えて紹介します。

◆雲南の自然と人々 調査の合間に撮った写真から、食事や市場、花・植物、風景などのテーマにそって紹介します。



【開館時間】午前 9 時～午後 4 時 30 分
（入館は午後 4 時まで）

【入場料】

一般 300 円（240 円）
高・大学生 150 円（120 円）
（カッコ内は 20 名以上の団体料金）

※以下の方は入場料が無料です。

- 中学生・小学生、年齢未満児
- 65 歳以上の方（年齢を示すものを提示）
- 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方（手帳提示）及び介護者 1 名

【休館日】

- 毎週月曜日（ただし 3 月 22 日は開館し 23 日は休館、5 月 3 日は開館し 6 日は休館）

【交通案内】

●電車・バスをご利用の場合

・JR 千葉駅東口の 7 番のりばから京成バス「大学病院」行きで約 15 分、「中央博物館」バス停下車、徒歩 7 分。

・JR 千葉駅東口 2 番のりばから千葉中央バス「中央博物館」行きで約 20 分。終点「博物館・文化ホール」バス停下車、徒歩 1 分。

・JR 蘇我駅東口 2 番のりばから小湊鉄道バス・千葉中央バス「大学病院」行きで約 15 分。「中央博物館」バス停下車、徒歩 6 分。

・京成千葉駅から徒歩約 20 分。

●自家用車をご利用の場合

京葉道路「松が丘」インターチェンジから約 5 分。中央博物館は、「県立千葉の森公園」の中にあります。「市立千葉病院」方面の「千葉の森公園 北口駐車場」をめざしてください。

【お問い合わせ】千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
（青葉の森公園内）
TEL：043-265-3111
FAX：043-266-2481

【PC】ホームページ
<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

【携帯電話】



CHIBAちば

みんなで取り組む
千葉の教育

